

日本鑄造工学会東海支部 若手鑄造エンジニア懇話会 2024 年度工場見学会 終了報告

2024 年 7 月 9 日・10 日に、アイシン九州キャスティング株式会社様、トヨタ自動車九州株式会社様、株式会社九州テクノメタル様のご協力を頂き、今年度の工場見学会を実施した。YFE 会員から 30 名の方にご参加いただいた。

初日の見学先、アイシン九州キャスティング株式会社様に到着後、ご挨拶、会社概要のご説明をいただき、その後 2 班に分かれダイカストの鑄造職場、加工職場を見学させていただいた。

工場内は明るく、とてもキレイで、鑄造作業員が清掃している姿も見られ、作業環境維持への意欲の高さを垣間見ることができた。鑄造・加工が一つの建屋で繋がっており、中間在庫が最小限の一貫生産をされていた。また大地震を経験された会社ならではの地震対策についても学ぶことができた。



2 日目は 2 班に分かれ午前、午後で見学先を入れ替えて見学した。トヨタ自動車九州株式会社様では、ご挨拶、会社概要のご説明をいただき、ダイカスト、砂型造形、低圧鑄造などの工場全体を見学させていただいた。工場内はロボットや AGV などが多く配備されており、自動化、合理化されたラインを見せていただいた。特に砂型造形と低圧鑄造の一貫ラインでは作業配置



を含めた合理化ラインとなっており、無機中子により無臭となっている職場はとても良い環境であった。ダイカスト工程でも自動化や合理化は進められており、生産に合わせたライナーの自動供給マシンを見ることができた。低圧鑄造で使われている中子砂は洗浄後、再利用がされており、環境への取組についても学ぶことができた。

株式会社九州テクノメタル様の敷地内にある「鑄物記念館」では東洋初の黒心可鍛鑄鉄を製造した戸畑鑄物及び設立者の鮎川義介氏の歴史について学んだ。反射炉の模型や道具、設備の数々は、当時の苦労を感じるだけでなく、先の 2 社で見せていただいた最新の工場に繋がっていく先人たちの技術開発を感じることができる大変貴重な時間となった。一方で、鮎川氏らが描いた 100 年後の未来にいる鑄造技術者の一人として、鑄造工学会を通して、鑄造業界が更に発展していけるような取り組み、企画を行いたいと思う。



コロナ過で久しぶりの開催となる今年度は東海地区を飛び出し九州地区で開催することになった。九州地区には企業の拠点も多く、新しい工場が多くあるが、国産鑄造の歴史も古く、今回の工場見学ではその一端を感じられる大変貴重な時間となった。参加者から受け入れ企業への質問も活発で、名残惜しい気持ちで終了の時間を迎えたことは、工場見学が参加者にとって有意義な時間にする事ができたと感じている。

末筆ではありますが、工場見学の開催にあたり快く引き受けていただき、丁寧な説明をしていただいた、アイシン九州キャスティング株式会社様、トヨタ自動車九州株式会社様、株式会社九州テクノメタル様に厚く御礼申し上げます。

(2024/07/30 報告 ヤマハ発動機 株式会社 加藤 明彦)